

案

令和2年 月 日

大和市長 大木 哲 殿

大和市長総合計画審議会
会長 中林 一樹

第8次大和市長総合計画の最終的な総括について（提言）

第8次大和市長総合計画の最終的な総括について、次の基本姿勢と検討手法をもって、慎重に審議を行い、その結果、意見を取りまとめましたので、提言いたします。

1. 基本姿勢

第8次総合計画の計画期間の満了に伴い、「市民が健やかで康らかな生活を送ることのできるまちの実現に向けて、これまで市がどのような取り組みを行い、どのような成果が得られているのか」という点に着目するとともに、現行の健康都市やまと総合計画において「人」・「まち」・「社会」の3つの健康をさらに深化・成熟させていくことにつながる視点から、最終的な総括を行いました。

2. 検討手法

第8次総合計画後期基本計画における前半（平成26～28年度）の取り組みを対象に行った中間評価をはじめ、これまで順次行ってきた評価や、今回実施した後期基本計画5年分の「成果を計る主な指標」の検証を中心に、審議会で行ってきた事業所管課との意見交換なども踏まえながら、とりまとめました。

3. 各健康領域の施策展開について

人の健康

○人の健康領域の成果を計る主な指標のうち、約7割は後期基本計画期間中に数値の上昇を示しており、取り組みの成果が概ね表れていることが確認できます。

○市民がいつまでも健康に暮らしていくという観点で、かねてから取り組んできたがん検診の充実については、受診機会の拡大などを進めてきたことで、計画期間内に総じて受診率の向上がみられており、評価することができます。また、高齢化が進展する中であって、「70歳代を高齢者と言わない都市 やまと」宣言を行ったことは、高齢の方が生き生きと活躍することへの前向きなメッセージを送る画期的な取り組みであると考えます。健康づくりの知識に関する普及啓発や健康相談等の取り組みを進めてきた一方で、「自ら健康づくりに取り組んでいる市民の割合」は計画期間を通して横ばいとなっています。年を重ねることによって、一人ひとりの健康への意識のハードルが高くなっている可能性もありますが、健康であることを大げさに捉えすぎないよう市民の意識を和らげながら、健康づくりの裾野をさらに広げていくよう、努めてください。

○市民が安心して子どもを産み、子育てができる環境づくりに関しては、共働き世帯の増加などを背景に保育ニーズが高まる中であって、この間、積極的な保育所等の整備などを進め、入所定員数を大幅に増やしてきており、平成28年度から4年連続で待機児童ゼロを達成したことは、高く評価できます。また、県内に先駆けて実施してきた不育症治療費の助成や、妊娠前から妊娠・出産・子育て期の様々な相談に応じる「子育て何でも相談・応援センター」の開設など、子育てに関わる切れ目のない支援の取り組みも充実しており、市民が子どもを産み育てやすい環境の実現に向けて、着実に歩みが進んでいると考えます。一方で、母子の健康と安全を守るために重要な妊婦健康診査を適切に受診してもらうことについて、更なるはたらきかけが必要ですので、引き続き、その重要性を発信していくとともに、様々な機会を捉えてきめ細かな受診勧奨に努めてください。

○学校生活を通して子どもたちが健やかに育つという観点からは、この間、計画期間中において、放課後の学習支援など、子どもたちの学力向上や学習習慣の定着に資する機会を積極的に創出してきたことはとても良い取り組みと考えます。また、学校図書館のリニューアルや、学校司書の全校配置などを積極的に進めたことは、子どもたちの平均読書冊数の増加にもつながり、確かな学力や豊かな感性を育む環境づくりが進んでいると評価できます。一方で、いじめや不登校といった、時に子どもたちの命にも関わる問題については、一定の割合で発生し続けています。その原因や背景としては、学校生活のトラブルや家庭環境など、様々な要因が複雑に絡み合っていることが考えられるため、教育委員会だけではなく、それぞれの要因に関係する行政分野の横断的連携をはじめ、地域の協力などを得ながら対策を進めるなど、常に課題意識を持って取り組みを進めていくよう努めてください。

まちの健康

- まちの健康領域の成果を計る主な指標のうち、9割以上が後期基本計画期間中に数値の上昇を示しており、取り組みの成果が着実に表れていることが確認できます。
- 計画期間を通して、犯罪認知件数や交通人身事故発生件数が大幅に減少したことは、これまで積極的に取り組んできた、街頭防犯カメラ・防犯灯の設置などの防犯活動や交通事故防止対策が成果を上げたものと評価できます。また、住宅の耐震化が進んでいることや「ヤマトSOS支援アプリ」による情報発信の開始など、近年多発する自然災害への備えの充実は、市民の日常生活の安全安心につながっているものと捉えられます。一方で、大規模災害への備えという点では、行政としての対策は進んでいますが、災害時に基本となるのは自助・共助であるということが、市民の意識の中でさらに高まっていくよう、継続して積極的に働きかけを行うとともに、近年、深刻さを増している風水害への対策についても在り方を検討して行ってください。
- 温暖化という地球規模の課題に対して削減を掲げた市内の二酸化炭素排出量は、計画最終年度には、実質的に目標としていた水準をクリアしており、基礎自治体として取り組むことのできる、公共施設への太陽光発電システム等の再生可能エネルギー設備の導入などを積極的に進めてきたものと捉えています。また、ごみの減量化が進んでいることや、焼却灰の資源化率が大きく上昇していることから、資源循環型社会への歩みが進んでいると評価します。一方で、大和市の特性として、市街化が進む裏側で、緑地が減少する傾向が見られますので、屋上緑化啓発や植樹など市内に新しい緑をつくり出すことにも目を向けつつ、防災の観点なども取り入れて緑地の保全にアプローチするなど、様々な手法を検討しながら、効果的な取り組みにつなげて行ってください。
- 後期基本計画期間中にコミュニティバスの利用者が倍増するとともに、自転車走行空間の整備が進むなど、市民にとって移動しやすい環境づくりが進んでいると評価します。一方で、人口減少社会の進展に伴い、大和市でも将来、空家の増加がまちの課題となっていくことが考えられますので、住戸の価値が維持されるために必要なインフラを整えるとともに、市民が安全で快適な生活を送るうえで問題となりそうな空家に対しては、早いうちから対策を取るよう努めてください。また、大規模災害発生時に脆弱な面を見せる密集市街地においては、有効となる施設整備を進めるほか、良好な街並みや住環境を整えていくため、都市計画の観点からも有効な手法を検討して行ってください。

社会の健康

- 社会の健康領域の成果を計る主な指標のうち、約半数が後期基本計画期間中に数値の上昇を示しています。
- 文化創造拠点シリウスの完成に伴い、市民一人当たりの年間図書貸出冊数が増加していることや、多くの施設利用があることなどを踏まえると、市民の読書や学び、文化芸術に関する活動も活発になってきていると捉えられます。一方で、施設利用が盛況であるが故の課題に取り組んでください。また、大和市の歴史文化の継承といった観点にもしっかりと意識を傾けながら、さらなる豊かな心の醸成に努めてください。
- 平成30年度に、大和市企業活動振興条例を制定し、企業活動への支援を強化していることや、さがみロボット産業特区に加入し、国の交付金なども活用しながら市内企業のロボット導入を促進していることは、新たな産業振興や、活力に満ちた地域社会を築いていくことにつながるものと評価します。一方で、計画期間を通して、商店会等に加入する商業者が減少傾向にあることや、自治会への加入世帯割合が低下していることは、いずれもまちのにぎわいや地域の活力を考える上では課題と考えられます。社会状況や人々の価値観が変化してきた中で、対応が難しい側面もありますが、地域の住民や商業関係者と連携を深めながら、効果的な対策を検討してください。
- 多様な考え方を認め合うという観点からは、(公財)大和市国際化協会と連携し、多文化共生の推進に取り組んできたことで、外国人を支援するボランティア登録者数が増加しており、成果が上がっていることが見受けられます。一方で、社会が多様化する中であって、男女が平等であると感じる市民の割合が、計画期間中ほぼ横ばいであることを踏まえると、今後も、男女共同参画に関する考え方については、引き続き、意識啓発などに取り組んでいくことが必要と考えます。

以上、第8次総合計画における「人」・「まち」・「社会」の3つの健康領域の取り組みに対する総合計画審議会の見解を総合的に踏まえると、将来都市像にも掲げた、健康の創造は、着実に進んだものと捉えられるところです。健康都市やまと総合計画においては、3つの健康の深化・成熟を図りながら、健康都市の実現に向けてより一層取り組んでいくことを期待します。